



## 審議事項

1. 前回議事録の確認 (資料-26.6.0, pp.1-6)  
峯岸幹事より、資料に基づき前回議事録(案)について説明があり、承認された。
2. 全体関係
  - (1) 平成 26 年度基準部の活動について(継続)
    - ① 中期目標における基準の英文化に関する、地盤工学としての戦略に関して  
特になし
    - ② 試験基準の ISO 化に際しての確認事項に関して  
特になし
    - ③ 平成 27 年度予算案 (資料-26.6.1, pp.7-17)  
長尾事務局員より、資料に基づき平成 27 年度予算案について説明があり、承認されたが、その際に以下の質問、提案等があった。  
佐藤部長より、第 3 次案に対して 120 万円の追加削減額の算定基準について質問があったが、特に明確な基準はないとの回答であった。  
また、交通費削減のためには、TV 会議システムを利用することで対応出来るが、現システムでは通信速度が遅く使いづらいので、総務部会および理事会メンバーへ佐藤部長より改善の提案をすることになった。
    - ④ 平成 26 年度事業報告「まえぶん」の作成 (資料-26.6.2, pp.18-22)  
長尾事務局員より、資料に基づき平成 26 年度事業報告「まえぶん」の作成依頼があり、部会終了後、昨年度の「まえぶん」を各担当者へ送信するので、適宜修正をして事務局へ提出することになった。
    - ⑤ 予算執行状況 (資料-26.6.3, pp.23-24)  
長尾事務局員より、資料の基づき平成 26 年度の予算執行状況について説明があり、確認された。
    - ⑥ その他  
特になし
3. 委員等の異動
  - (1) 室内試験規格・基準委員会  
特になし
  - (2) 地盤調査規格・基準委員会  
特になし
  - (3) ISO 国内委員会  
**理事会報告① TC190 国内委員会 新任委員 すべてメール審議済**
    - ・張 銘 氏(産業技術総合研究所)担当 SC SC2、SC7  
(理由)国内の重金属汚染土壌に関わる権威であり、過去にアメリカの ASTM 規格の立案にも貢献されていることから、今後、日本の現状を踏まえた ISO 規格立案に向け、参加をお願いしたい。
    - ・吉村 雅仁 氏(DOWA エコシステム株式会社ジオテック事業部)担当 SC SC2 SC7  
(理由)トレーサーを用いた地下水流動や汚染土壌の含水率に関わる知見を有しており、今後、SC7 のリスク関係の審議や ISO の SR レビュー時に意見ををお願いしたい。
    - ・グルニング ヴォルタ 氏(明治コンサルタント)担当 SC SC2  
(理由)汚染土壌全般に関わる幅広い知識を保有しており、アンブレラアプローチをはじめとする調査関連の規格についての審議をお願いする。
  - (4) 地盤設計・施工基準検討委員会  
特になし
  - (5) 表記法検討委員会  
特になし
  - (6) 技能試験実施委員会  
特になし
  - (7) 部員の異動  
特になし
4. ISO 国内委員会 関係  
特になし

5. 地盤工学表記法委員会 関係

特になし

6. 室内試験規格・基準委員会 関係

特になし

7. 地盤調査規格・基準委員会 関係

(1) 井戸理論解—地下水調査のための解説書—

(資料-26.6.4, pp.25-39)

浜田部員より、資料に基づき説明があり、「井戸理論解—地下水調査のための解説書—」は WG の委員の要望で途中経過を収めた物であって、いずれは書籍として出版（次回青本改正時にはここから抜粋して解説に掲載する）したい意向があるとのことであった。後日、浜田部員よりメールで原案を送信するので確認をしていただき、意見等がある場合は、浜田部員へ連絡することになった。

(2) 地下水面より上の地盤を対象とした透水試験方法

(資料-26.6.5, pp.40-53)

浜田部員より、資料に基づき説明があり、原案は WG の各委員からの意見を集約したものであり、ほぼ最終版であるとのことであった。内容に関して意見等がある場合は、浜田部員へ連絡することになった。

(3) 新規制定基準「動的コーン貫入試験方法」解説

(回覧資料)

浜田部員より、回覧資料に基づき説明があった。基準の本文は学会誌での公示が終わっており、本解説は WG の意見を踏まえたものであることが報告された。

**理事会報告** (4) 新規制定基準「動的コーン貫入試験方法」基準番号

(資料-26.6.6, p.54)

浜田部員より、資料に基づき説明があり、「動的コーン貫入試験方法」と「単孔を利用した地下水流向流速測定方法」について、原案通りの基準番号で承認され、理事会へ報告することになった。

8. 地盤設計・施工基準委員会 関係

特になし

9. 技能試験実施委員会 関係

特になし

10. 基準部所管刊行物

**理事会報告** (1) 「土質試験 基本と手引」(第二回改訂版)の増刷

(資料-26.6.7, p.55)

部数：8000部

長尾事務局員より、資料に基づき説明があり、原案どおり 8000部で承認され、理事会へ報告することになった。

11. その他

特になし

報告事項

1. 理事会 (H27/1/30、2/25 (書面会議)) 開催報告

(資料-26.6.8, pp.56-64)

佐藤部長より、資料に基づき理事会報告がなされた。

基準部関連事項のほかに、平成27年度予算案については、削減額の算出については明確な回答が得られなかったこと、学会員の減少が継続的な問題で対策について検討していることなどが報告された。

2. 全体関係

特になし

3. 部会・委員会関係

(1) ISO 国内委員会

① 平成26年度 ISO 対応活動費の資金援助要請に関する経過報告

(相手先)	(金額)		報告書の有無	(納期)	
	助成	受託			
・土木学会	100万円		○		
・三菱総合研究所 (回答作成)	0万円		○		

・三菱総合研究所（旧重点TC旅費）	0万円		○		
・日本建設業連合会	50万円		○		
・ISO/TC190 関係（研究委託）	0万円		○		
・日本規格協会	81.2615万円		○		
・三菱総合研究所（国際標準開発事業）		1015万円	○		
小計	231.2615万円	1015万円			
合計	1246.2615万円				

浅田部員より、上記表に基づき説明があり、土木学会と日建連の助成金で4名が出張し、ISO/TC190 関係の助成金と三菱総研の受託金でスクリーニングの報告書を作成中であることが報告された。

**理事会報告② 国際会議派遣** (資料-26.6.9, p.65)

浅田部員より、資料に基づき報告がなされた。

(2) 地盤工学表記法委員会

特になし

(3) 室内試験規格・基準委員会

**理事会報告① 地盤工学会誌会告(案)** (資料-26.6.10, p.66)

新規制定基準「岩石の一軸引張り試験方法」素案について

藤原部員より、資料に基づき説明があり、学会誌4月号において公示し、6月30日まで会員からの意見募集を行うとの報告があった

② WG13 活動報告 (資料-26.6.11, pp.67-69)

藤原部員より、資料に基づき岩の力学連合会「岩の力学ニュース」に掲載される記事の原稿が報告された。

③ 会員からの質問と回答 (資料-26.6.12, pp.70-73)

藤原部員より、資料に基づき説明があり、会員からの質問に対する回答について2件行ったとの報告があった。

(4) 地盤調査規格・基準委員会

① 地盤調査規格・基準委員会（平成26年度第3回）議事録 (資料-26.6.13, pp.74-76)

浜田部員より、資料に基づき報告がなされた。

② WG3 活動報告 (資料-26.6.14, pp.77-78)

浜田部員より、資料に基づき報告がなされた。

③ WG10 活動報告 (資料-26.6.15, p.79)

浜田部員より、資料に基づき報告がなされた。

④ 会員からの質問と回答 (資料-26.6.16, pp.80-82)

浜田部員より、資料に基づき説明があり、会員からの質問に対する回答について3件行ったとの報告があった。

(5) 地盤設計・施工基準委員会

特になし

(6) 技能試験実施委員会

① 技能試験実施委員会幹事会（平成26年度第2回）議事録 (資料-26.6.17, pp.83-85)

藤原部員より、資料に基づき説明があり、将来的には、力学試験（一軸、三軸、圧密など）を行う方向に進むが、次年度は改良土の一軸圧縮、湿潤密度を予定している。力学試験を行うに当たっての事前準備が必要なので、まずは、関係者で試行してから、全国レベルにしたい旨、報告があった。

併せて、日本は海外に比べてISO/IEC17025試験所認定取得が非常に少ないので、認定審査機関と連携して発注者に働きかけを行うことも検討していることが報告された。

この報告の際に、室内試験WGと意見交換を行うことによって次回の基準改正時に意見等をフィードバック出来るのではないかと提案があった。

また、参加費について、一般企業や団体と教育機関の区別を設けたらどうかとの提案もあった。

(7) 販売促進WG

特になし

(8) 英文HP

特になし

(9) 調査研究委員会企画案（地下水関係）

特になし

#### 4. 日本工業標準調査会 土木技術専門委員会

##### ●H26年度 基準部関係委員会開催状況

委員会名		委員会開催日, 太字は次回開催日
基準部会	佐藤 毅	5/2, 7/8, 9/2, 11/11, 1/20, 3/2
ISO 国内委員会 ・WG1 ISO/TC182 対応 ・WG2 ISO/TC190 対応 TC190/SC3/WG10 対応 WG ・WG3 ISO/TC221 対応	今村 聡 木幡 行宏 川端 淳一 坂井 宏行 宮田 喜壽	1/7, 4/23, 11/4, 1/14, 2/26 7/8
室内試験規格・基準委員会 ・WG1 物理特性 ・WG2 化学特性 ・WG3 透水・圧密特性 ・WG4 力学特性 ・WG5 安定化・締固め特性 ・WG6 ジオシンセティックス ・WG10 「土質試験-基本と手引き-」改訂編集 WG ・WG13 岩石の一軸引張試験基準化 WG ・WG14 過酸化水素水による土および岩石の酸性化可能性試験方法基準化 WG	川崎 了 (小口和明) (肴倉宏史) (大向直樹) (片岡沙都紀) (藤岡一頼) 木幡 行宏 大島 昭彦 谷 和夫 川地 武	6/20, 10/22, <b>3/5</b>  6/ 11, 7/31  7/3, 8/8, 8/20, 10/3, 11/13, 1/9, <b>4/10</b> 7/28, <b>3/</b>
地盤調査規格・基準委員会 ・WG1 物理探査・検層 ・WG2 ボーリング・サンプリング ・WG3 地下水 ・WG4 サウンディング ・WG5 載荷試験 ・WG6 現場密度試験 ・WG7 現地計測 ・WG8 環境化学分析のためのサンプリング ・WG9 地盤調査の計画, 資料調査・地質調査 ・WG10 不飽和地盤における現場飽和透水係数の測定方法 (仮称) ・WG11 動的コーン貫入試験方法基準化WG ・WG12 解散 ・WG13 水圧破砕による初期地圧測定法の基準化検討WG	利藤 房男 斉藤 秀樹 正垣 孝晴 進士 喜英 大島 昭彦 大島 昭彦 三嶋 信雄 上野 将司 江種 伸之 長田 昌彦 西垣 誠  大島 昭彦 伊藤 高敏	8/12, 12/10, 2/23  5/26, 9/30, 11/17, 1/19  4/16  6/23, 9/29  2/2 11/20, <b>3/26</b>
地盤設計・施工基準委員会 ・WG1 土構造物 ・WG2 杭の水平載荷試験 ・WG3 グラウンドアンカー ・WG4 サンドコンパクションパイル工法 ・WG5 地山補強土	木幡 行宏 本城 勇介 中井 正一 山田 浩 寺師 昌明 龍岡 文夫	
地盤工学表記法 ・WG-A	大島 昭彦	4/9, 7/10, 9/16, <b>3/19</b>
技能試験実施委員会	日置 和昭	7/16, 12/26, 2/2

3月中旬にISO国内委員会が開催されるので、宗像部員がオブザーバーで参加する方向で調整することになった。

また、浜田部員より、上記表中のWG活動が終了したWGは削除した方がよい旨、提案があった。

## 5. その他

1) 理事会（平成27年3月13日（金））への審議事項・報告事項  
議事録(案)中に朱書きで提示。

2) 総務部会（平成27年3月3日（火）開催予定）への提案事項

テレビ会議の改善について申し入れを行うことになった。申し入れ文の原案は、佐藤部長が作成するので、本日のテレビ会議で気付いたことがあれば、佐藤部長に3月3日午前中までに連絡をすることになった。また、会議中に、通信速度が遅いため臨場感がなく疎外感を感じる、カメラをもう少し良い物にした方が良い、本格的なテレビ会議システムを導入した方が良いなどの意見があった。

3) 次回以降の部会開催日

・ 27年度第1回：第1案 平成27年5月 日（ ） 14:00～

第2案 平成27年 月 日（ ） 14:00～

（対応理事会 H27.5.15 or H27.6.11 ）

・ 27年度第2回：平成27年7月 日（ ） :00～

★ 平成26年度 理事会 開催日程（予定含む）

① 4月23日（水） ※書面審議

② 5月16日（金）

★ 6月12日（木） 総会／理事会

③ 6月19日（木） ※書面審議

④ 7月24日（木）

⑤ 9月26日（金）

⑥ 10月22日（水） ※書面審議

⑦ 11月28日（金）

⑧ 12月24日（水） ※書面審議

⑨ 1月30日（金）

⑩ 2月19日（木） ※書面審議

⑪ 3月13日（金）

-----  
⑫ 4月22日（水） ※書面審議

⑬ 5月15日（金）

★ 6月11日（木） 総会/理事会